

令和4年度青森市指定管理者選定評価委員会 会議概要
(「指定管理者候補者選定」に係る審査)

1 開催日時 令和4年10月3日(月) 10:00～10:50

2 開催場所 青森市議会棟 第1委員会室

3 対象施設 ユーサ浅虫

4 出席者

(1) 選定評価委員会

委員長 舘山 公(企画部次長)

副委員長 工藤 拓実(総務部次長)

委員 竹内 紀人(青森中央学院大学教授)

委員 桃野 敬(東北税理士会青森支部税理士)

委員 泉 宏明(環境部次長)

委員 土岐 政温(都市整備部次長)

委員 大久保 綾子(教育委員会事務局教育次長)

(2) 施設所管課(観光課)

課長 船橋 正明

主幹 坂本 亮

主査 松本 洋平

(3) 制度所管課(財政課)

副参事 阿部 有一郎

主査 阿部 ゆき

主査 櫻田 博光

5 案件 指定管理者候補者の選定について

6 審査結果

(1) 指定管理者候補者

・名称 一般財団法人 青森市文化観光振興財団

・住所 青森市雲谷字梨野木63

・代表者 理事長 能代谷 潤治

(2) 指定期間

令和5年4月1日から令和10年3月31日まで(5年間)

(3) 選定理由

- ・応募資格を満たしていること。
- ・「応募団体について」及び「効率性について」を除いた得点（97.14点）が最低基準点（77点）以上を獲得していること。

7 主な質疑内容

【職員等の配置計画】

委員：職員等の配置計画について勤続20年以上の職員が4名、15年以上の職員が4名おり、浴場の管理は全員が対応できる体制を構築していることから、ベテラン職員を中心として、専門的な業務を適正に行っており、信頼のおける施設である印象を受けた。

当該施設がこれから行っていく新しい取組や将来の次代を担っていく人材として、若手職員の方々の育成についての考えをお示しいただきたい。

応募団体：当該施設の入社年数が若い職員として、30代・40代の男性が3名おり、当該職員がベテラン職員と同様の対応ができるように、訓練して経験を積んでいる状況であることから、当面は管理運営上大丈夫であるものと考えている。

今後の若手職員の人材育成については、退職者が出た場合、ベテラン職員の仕事を補充できる若手職員は現状では少ないが、今後の経営上の永続的な課題であり、検討していかなければならないものと考えている。

【収支予算】

委員：収支予算計画について、人件費が市で示している基準額を上回る費用を計上しており、この人件費内訳では市から示している基準14人に対して結果的に何人になるのか。

応募団体：浴場が9人、事務が4名となっている。

内訳人数は少ないが、正職員がいるため、基準額より多少は人件費を高くせざるを得ないという状況である。

人件費増分の財源は、自主事業を積極的に行い、収益で賄っていきたいと思っている。

委員：人数を増やさないままで、基準額よりも単価を増やしているのは、高く払うことになるのか。

応募団体：市は積算単価が時間給であるが、実際は月給制の職員がいるため、基準額よりも高い金額となっている。

委員：基準額よりも高く払う場合、収入を上げられなければ赤字になる。

年々人件費を上げる計画になっているが、その分事業収入で増やしている。

年々人件費が増える分、事業収入があがっていく根拠を示していただきたい。

応募団体：利用料金制の導入は初めてだが、今後は浴場利用や会議室の利用促進について、今まで以上に積極的に取り組んで参りたい。

浴場に関しては、市内の公衆浴場料金 450 円に対し、360 円と安い点をより PR して利用客を増やしていきたい。例えば、10 回来たら何かプレゼントするといったインセンティブを差し上げる等、営業努力していくことの決意だと理解いただきたい。

会議室についても、使いやすい、駐車場無料という点を、市の広報誌を含めて PR していきたい。

【自主事業】

委員：産直、地産直売業務あるいは沖揚平の高原野菜販売会など考えているということであったが、グリーンシーズンに対して冬は、農産物の販売についてはどのような実施体制であるのか。

応募団体：冬は出品する農家の方々が少ない中で、青果を取り扱っている障がい者施設との契約があるので、冬場は当該施設の 2 社との契約を締結し、実施しているところである。安い青果が欲しい、果物を食べたい、というニーズに対して、冬場も対応できる体制を構築しており、安定的な供給を行っているものと認識している。

【地域や関係団体との連携】

委員：『町内各種団体と連携していく点』において、具体的にどういった団体とどういった連携を強化していくのかお知らせいただきたい。

応募団体：昨年から実施している、浅虫のまちづくり協議会やがっちゃんこ、大学生、町会との連携をはじめ、浅虫温泉観光協会や旅館組合、その他浅虫の各種団体、地元の方々が自主的に積極的に協働で実施していく動きが出てきたので、その関係の皆さんと幅広く深く連携していきたい。

【防犯・防災・緊急時の対応に関する取組】

委員：避難所に指定されているが、避難所の開設訓練は実施しているのか。

応募団体：市の方々が来て、指定管理者職員が不在の際でも、所定の場所に保管している鍵を使用して解錠する訓練を今月行う予定になっている。

委員：鍵を開けた後に住民の方、地域の方が実際にユーサ浅虫を避難所として使うための訓練は行っているのか。

応募団体：指定管理者職員が不在の夜間時に、市の避難所配置職員が駆けつけた際に、所定の場所に保管している鍵を使用して解錠し、4階会議室を避難所にする手順になっているが、その後の町会の方々も含めた打合せ等、手順が必要であれば、詰めていきたいと考えている。

【収支予算】

委員：（募集要項 P8「11 利用料金に関する事項」に記載の）利用料金の見込額は、年 28,156,009 円となっている。

一方、応募団体からは 5 年度収入見込で 31,507,930 円を計上していて、比較すると 300 万円程度の差があるが大丈夫なのか。

また、応募団体の収支を見れば、年々収入が増えて、連動して人件費も増やしているが大丈夫か。

施設所管課：利用料金収入は、浴場利用収入、会議室利用収入、業務用施設利用収入となっている。

メインは浴場収入で、現在は直近 4 年平均で 2,400 万円程度だが、応募団体は浴場利用料金を弾力運用で一部値上げするほか、PR 等努力しながら何とかコロナ前の水準（3,100 万円程度）に戻していこうという努力目標だろうと認識している。

利用料金収入を増やしていくため企業努力をし、その増えた分を人件費に回していこうという、やる気が見える良い提案内容だと思っている。